

説明書

(令和6年3月30日作成)

・不誠実対応-46

アルプスの森(施設長:宇津慎史)は事件のため施設が閉鎖中にも関わらず、何の問題もなく施設運営を継続していると思わせるようなホームページの改訂を行った(<https://www.alpine-forest.com>)。また、遺族に説明も報告もなく、悠生の命を奪った事件に関する記事を削除した。この期においてもなお、宇津被告兄弟(宇津慎史及び、宇津雅美)が如何に被害者及びその家族に真摯に対応していないかが解る内容であった。

(詳細説明)

アルプスの森(施設長:宇津慎史)は、遺族が希望しているにも関わらず、悠生の命を奪った事件を説明する文章をアルプスの森(施設長:宇津慎史)のホームページ上に掲載することを拒否し続けた。

マスメディアで取り上げられるようになり半年以上かかって、やっとホームページに掲載されるようになったが、記事内容の殆どが嘘であった(不誠実対応-45参照)。

しかしながら遺族としては、嘘まみれの事故説明を施設側が掲示し続けることは、施設が如何に異常であるかを公に説明している事になるので、それでも良いと認識していた。

しかしアルプスの森(施設長:宇津慎史)は遺族への説明もなく、今まで使っていたホームページを閉め、事件に関する説明が一切ない新しいホームページを立ち上げた。

現在、施設長の宇津雅美と児童発達支援管理責任者の宇津雅美は、この施設で起こした暴行事件で公判中である。責任者が利用者に対して暴行事件を起こしたため、放課後等デイサービスも、児童発達支援も現在、閉鎖中である。

しかしながら、新しく作成されたホームページには、死亡事件の記事も、暴行事件の事の記事もなく、さらには現在閉鎖中の記事もない。

施設長の宇津慎史は現在、拘留されており、このホームページの更新は施設長が拘留中になされている。従ってホームページの改訂の指示を出したのは、死亡事件を起こした宇津雅美だと思われる。

遺族としては、宇津兄弟(宇津慎史及び、宇津雅美)は、ホームページを改訂することで、自分たちが行い続けて来た不誠実な対応を隠そうとしていると考えている。特に遺族側がホームページ上での事件の説明を載せるべきであると言いつけて来たことはアルプスの森(施設長:宇津慎史)は知っているの対応であり、非常に不誠実である。

また改訂版のドメインを確認したところ登録を行っていたのは、2023年5月7日であった(改訂版ドメイン情報)。一方、旧ホームページには、同年6月12日付の文章で死亡事件の説明を行っていた(不誠実対応-45)。従って、ホームページ改訂に伴う死亡事件説明の削除を、アルプスの森(施設長:宇津慎史)は、初めから予定していた可能性も残る。

アルプスの森(施設長:宇津慎史)は、非常に不誠実な対応をまだこの期においても行うのかと遺族は驚愕している。

▶アルプスの森(施設長:宇津慎史)ホームページのトップページの記載内容



ALPUS

合同会社ミヤビについて

合同会社ミヤビは土日も行っている障害福祉事業団体です。

吹田市「アルプスの森」では児童発達支援・放課後等デイサービスと生活介護を行い、障がい児や障がい者が安心できる生活を守り、その人らしい生活を支援し、より豊かで安心できる社会の構築を目指しています。

当事業所の特徴は「土日祝も営業」している事です。

「みんなと共に豊かに育ってほしい。」そんなご家族様の願いを支援者として専門性を活かしながらお子さまの成長に少しでもお役に立ちたいと考えています。

合同会社 ミヤビ

【法人本部 / デイサービス アルプスの森】

〒564-0054 大阪府吹田市芳野町16-3

TEL:06-4860-6926 / FAX:06-4860-6927

上記記載内容で非常に我々遺族が、違和感を覚える部分を以下にピックアップ

吹田市「アルプスの森」では児童発達支援・放課後等デイサービスと生活介護を行い、障がい児や障がい者が安心できる生活を守り、その人らしい生活を支援し、より豊かで安心できる社会の構築を目指しています。

⇒ 放課後等デイサービスにおいて、施設長(宇津慎史)と児童発達支援管理責任者(宇津雅美)は日常的に施設利用者の少年に対し暴行を行っていたことが判明しており、現在、刑事事件の被告人になっている状況である。

公判において少なくとも特に年に一度は、従業員に対し、施設利用者に対して暴力で対応することを推奨する研修も行っていたことも判明している。公判において、宇津被告兄弟(宇津雅美及び、宇津慎史)はこの事実も認めている。勿論、日常的に暴行を行っていたことは施設利用者の保護者には知らされていなかった。

また、宇津雅美が悠生の命を奪った事件に関しても、嘘・偽り・隠蔽を繰り返している。この多くの嘘・偽り・隠蔽が施設利用者の命を奪うことであることを理解しながら、宇津雅美は状況を放置し続け、結果として悠生の命を奪った。

さらには悠生の命を奪ったにも関わらず、その後も多くの保護者・自治体・警察・施設利用者への嘘・偽りの説明を続けていたことが判明している。

また悠生の命を奪った事件に関しては、遺族側が求めてるにも関わらず、未だ公開での事件に関する説明会は開かれていない。あまりにもアルプスの森(宇津慎史)の不誠実対応が続くため、遺族側は説明会開催を望む署名活動を行っており、5,759名もの方々に賛同して署名をして頂いた。勿論この署名もアルプスの森(施設長:宇津慎史)には提出しているが、未だ公開でのまともな説明会は開催されていない。

隠蔽と捏造を繰り返し、それがバレて説明を求められても公開での説明を行わない施設側の態度が非常に無責任であると遺族は認識している。

同様に、施設利用被害者の感情を逆なでする当該ホームページ記載内容を以下に提示する。



⇒

日常的に子供に対して、施設長(宇津慎史)、児童発達支援管理責任者(宇津雅美)は暴行を働いており、さらには少なくとも年に一度は施設利用者に対する暴行を推奨すると言った内容の研修会を従業員に行っていた事が公判で判明。宇津被告兄弟(宇津慎史及び、宇津雅美)もその事実を認めている。従って、子供達の行動や感情を踏みにじった対応を行ってきた施設であること明白である。

また知的障害がある子への暴力は、知的障害がない子への暴力以上に大きなダメージを被害児童に与えてしまう。これは自分が受けた暴力の原因を理解できないことが、知的障害のある子には多い事に起因する。それにも関わらず、この施設は日常的に施設利用児童に対し暴行を行ってきたことが判明している。従って、この施設は専門性をもった対応とは程遠い対応しかしていないと、私達、この施設の被害者遺族は感じている。



♡ 放課後等デイサービス

お子さまの喜怒哀楽を基準とした言語・非言語を読み取ることを大切にし、ご家族さまの願いを支援者として専門性を活かしながらお子さまの成長に少しでもお役に立てるよう努めています。

[詳しく見る](#)

⇒

施設側は子供の感情を無視し、暴力で支配しようとしていたことは既に判明している。

また児童発達支援管理責任者(宇津雅美)が行った隠蔽・虚偽報告によって奪われた悠生の命に関する状況の公開での説明を、遺族側が何度も施設側に願いを伝えているにも関わらず、今日に至るまで施設側は対応していない。さらには事件に関して明らかな嘘・偽りの説明を悠生の命が奪われた後も繰り返した。

この施設側が嘘・偽りを行い続けていた事実は、警察が取り調べをすることで判明してきたものであり、施設側から情報提供されたものではない。

After-School Daycare Service

放課後等デイサービス

「みんなと共に豊かに育てほしい」

そんなご家族さまの願いが真摯であればあるほど、しっかりと受け止めなければなりません。

私たちは決してご家族さまの代わりにはなれませんが、ご家族さまの願いを支援者として専門性を活かしながらお子さまの成長に少しでもお役に立ちたいと思います。

スタッフ全員が大切にしている事としてお子さまの喜怒哀楽を基準とした言語・非言語を読み取ることを大切にしています。

⇒

私達遺族は悠生の送迎時の誘導に関し、2名以上の従業員で対応し、誘導時にはしっかり職員が悠生の体を掴んで逃げださないようにすることを施設側(施設長:宇津慎史)と約束していた。

しかしながらこの命に関わる約束は施設側により反故にされた。施設側はしっかりと2名体制で誘導は行っていると対外的には説明していたが、実際は一人での誘導を行ってきており、さらにはそのため過去に何度か飛び出し事故が発生していたにも関わらず、保護者及び自治体に報告せず隠蔽していた。

この施設の不誠実な対応により、悠生は命を失ってしまった。しかしながら、不誠実な対応は悠生の命を奪った後にも何度も繰り返された。今回のホームページ更新も、施設側が行っている不誠実対応の一つであると遺族側は認識している。



私たちの想い

そんなご家族さまの願いが真摯であればあるほど、しっかりと受け止めなければなりません。

私たちは決してご家族さまの代わりにはなれませんが、ご家族さまの願いを支援者として専門性を活かしながらお子さまの成長に少しでもお役に立ちたいと思います。

スタッフ全員が大切にしている事としてお子さまの喜怒哀楽を基準とした言語・非言語を読み取ることを大切にしています。

運営理念

- ▶ 信頼関係を築くため、明るく、丁寧な対応をします。
- ▶ 人格を尊重し、権利を護ります。
- ▶ スタッフ全員が配慮ある対応に取り組みます。
- ▶ よく聴き信頼感のもてるサービス提供を心がけます。
- ▶ プライバシーを守ります。



上記記載内容で非常に我々遺族が、違和感を覚える部分を以下にピックアップ

運営理念

- ▶ 信頼関係を築くため、明るく、丁寧な対応をします。
- ▶ 人格を尊重し、権利を護ります。
- ▶ スタッフ全員が配慮ある対応に取り組みます。
- ▶ よく聴き信頼感のもてるサービス提供を心がけます。
- ▶ プライバシーを守ります。

⇒

上記記載内容は、私達遺族が驚愕を覚える記載内容であると認識している。命に関わるような隠蔽・虚偽報告・捏造を繰り返し、実際に施設利用者の命を奪ったにも関わらず、その後も隠蔽・虚偽報告・捏造を繰り返していたことは既に判明している。**信頼関係を築くため、明るく丁寧な対応**をするのであれば、少なくとも隠蔽・虚偽報告・捏造を繰り返すことはやめて頂きたいと、私達遺族は感じている。

施設長の宇津慎史、児童発達支援管理責任者の宇津雅美、従業員の棟方日出海が日常的に施設利用者に対して暴行を働いていたことが既に判明している。暴行は、**人格を尊重し、権利を護る**行動とは程遠い内容である。

さらには年に一度は、暴力で施設利用者に対応することを薦める研修を施設従業員に行っていた事も現在判明している。スタッフ全員が暴力を施設利用者にするような研修を受けており、とても**スタッフ全員が配慮ある対応に取り組んでいる**とは思えない。

この施設側の一方的なホームページの更新においても、遺族側が求めているにも関わらず、事件の説明を一切していない。遺族が何度も施設側に希望しても事件の説明は一切してこなかった。悠生の命が奪われ半年以上経過し、マスメディアがこの事件を取り上げだしてやっと、施設側は旧ホームページに事件の説明を載せたが、掲載内容は嘘・偽りだらけであった。施設運営が停止しているにも関わらず、今回、施設側はホームページを更新している。この更新において悠生の命を奪った事件に関しての言及は削除されている。ホームページ上において暴行事件に関する説明もない。遺族としては、施設側（施設長:宇津慎史）は、自分達が犯した犯罪を隠蔽するようなホームページを作り公開していると認識している。従って、施設利用被害者に対しても「**よく聴き信頼感のもてるサービス提供を心がける**」行動を行ってほしいと私たちは感じている。事件を隠蔽するといった行動はこれ以上とらないで頂きたいと遺族としては感じている。

悠生が行方不明の状態にも関わらず、施設側は通常運営を継続した。施設側の落ち度で悠生は行方不明になっているのにも関わらず、まともに施設利用者死亡事件の説明をしないまま、開所を継続した事に関し遺族側は施設に理由を追究している。

この点に関し施設側の言い分は、施設利用者には十分な説明をして施設運営を継続したとのことであった。しかしこの説明内容を遺族側が教えて欲しいと言っても施設側からの回答は今日に至るまでない。

さらには私達遺族に説明してきた事件の説明内容の大部分が嘘であったことが、既に警察の調べで判明している。

それに加え、悠生は行方不明になってから死亡が確認されるまでの約 1 週間は死亡確認がなされていない為、事件の説明内容は個人情報保護対象になる。

さらには令和 5 年 1 月 16 日にアルプスの森(施設長:宇津慎史)が遺族側に提出してきた報告書にあまりにも多くの捏造があったため、遺族はインターネットを使っての情報拡散を始めた。従って、いくら悠生が死亡していても(故人の情報は個人情報保護

対象ではない)、悠生が死亡した事に関する情報がネット上で拡散される1月末までは、悠生が死亡してしまった事に関する情報はまだ生存している遺族との繋がるため、要配慮個人情報にあたる。

すなわち施設側は悠生が死亡してしまった後、**プライバシーを守る対応**をしてこなかったのか、もしくは事件の説明責任を一切果たさず、施設運営継続を行っていたことになるかと遺族側は考えている。

▶今まで利用していたアルプスの森(施設長:宇津慎史)のホームページを閉めた証拠



現在こちらのページはメンテナンス中です。
公開まで今しばらくお待ち下さい。

▶放課後等デイサービスも児童発達支援も閉鎖中にも関わらず、新たに公開されたアルプスの森(施設長:宇津慎史)のホームページ



▶新たに立ち上げられたホームページにおいて普通に問い合わせが可能な状態になっている

無料見学・体験申し込み

私たちは必ず事前見学をお願いしています。

お子さまが早くなじめるようにする事が目的の一つです。場所の確認も兼ねて、お子さまの普段の生活の様子や、健康面で配慮すること等をお伺いしています。ご家族さまがご安心してお子さまを預けられるように、見学やご相談は随時無料で実施していますのでお気軽にお問い合わせくださいませ。

*メールでのお問い合わせは返信まで時間がかかる場合もございますので、お急ぎの方は電話にて直接お問い合わせ下さい。
尚、お問い合わせの際は、下記プライバシーポリシーをご確認ください。

お電話でのお問い合わせ：[06-4860-6926](tel:06-4860-6926) >>

必須 お名前

例) 山田 太郎

任意 ふりがな

やまだ たろう

必須 電話番号

例) 06-4860-6926

必須 メールアドレス

例) sample@mail.com

必須 お問い合わせ内容

必須 プライバシーポリシー

プライバシーポリシーを確認し、内容に同意します。

必須 認証

スパムメール対策の為に「ミヤビ」と入力して下さい

メールを送信する

▶アルプスの森(施設長:宇津慎史)が事故に関する説明を拒否していた証拠

アルプスの森(施設長:宇津慎史)の作成し、遺族側に提出した回答書に以下のように記載。

ホームページについてですが、本件事故のような重大事故が発生してもなお、障がいをもった児童が学校や家庭とは異なる空間で、将来的に自立した生活が送れるように支援する放課後等デイサービスの使命、役割は重要と考えております。ホームページは当社のこのような使命等を、周知するためのものですので、ご理解頂ければと存じます。

(回答書[令和5年3月16日])

▶マスメディアで取り上げられるようになり、半年以上かかって、やっとホームページに掲載されるようになったことについてのアルプスの森(施設長:宇津慎史)側のおこなった不誠実な対応の証拠

アルプスの森(施設長:宇津慎史)側が遺族の希望にも関わらず、一方的に説明の必要がないと判断し、放置し続けてきたことの以下の回答書でわかる。

ホームページ上での事故の公開が異常に遅くなったとのご指摘についてですが、当社としては異常に遅くなったとは考えておりません。

放課後等デイサービスにおいて事故があった際に、ホームページ上で説明を行うか否かの判断、説明を行うとしていつ行うのかといった判断は、基本的に各事業所の判断に委ねられているものと考えております。

(回答書[令和5年7月25日])